

学生生活への積極的行動と消極的行動，健康の指標の関連 およびその性差の検討 —休退学防止の視点から—

The Relationship Between Proactive/Reactive Behaviors in University Life and Health Indicators, and a Study of Gender Differences: A Perspective on Preventing University Dropout.

今井田 貴裕¹ IMAIDA Takahiro・今井田 真実² IMAIDA Mami・磯和 壮太郎 ISOWA Soutarou
(¹ 仁愛大学人間学部, ² 福井医療大学保健医療学部)

Keyword: : 大学生, 学生生活, 積極的行動, 健康の指標

問題

近年，我が国では，少子化の影響を受けて大学の進学者が減少している¹⁾。その結果として，学生の定員割れを起こした大学が増加傾向にあり²⁾，大学の財務状況は逼迫した状況にある³⁾。そのため，学生の確保は急務であり，各大学は学生募集を活発に行ったり，卒業後の良好な就職実績を謳ったりするなどして学生の確保に努めている。しかし，学生の確保の視点においては，在籍中の学生に対する支援も不可欠である。したがって，学生の将来的なキャリア支援を考えるうえでも休退学防止の取り組みは極めて重要である。

学生の休退学には様々な理由がある。例えば，精神的健康の不調や不登校，他大学の受験や就職など⁴⁾が挙げられる。また，休退学する学生は，欠席や遅刻といった兆候を示したり⁵⁾，中途退学者の精神的健康度が低かったり⁶⁾することがわかっている。また，Grade Point Average (GPA) の低さや授業の欠席率が退学者の予測に有用であること⁷⁾なども報告されている。このように，大学生の休退学防止には学生の欠席や遅刻，単位不足といった学生生活への消極的な側面や，精神的健康などの健康の指標に注目が必要と考えられる。

その一方で，授業の積極的な参加やサークルやアルバイト，就職イベントへの参加といった学生生活への積極的な側面は，管見の限り注目されていなかった。これらから，学生生活への消極的な側面と併せて検討することにより，休退学の恐れのある学生をより精確に抽出したり，実際の支援として役立てられたりする可能性がある。これは，多くの大学で，休退学防止として少人数の指導教員制を利用して欠席の多い学生に早期指導する点⁵⁾を考慮すれば，多忙化した大学教職員⁸⁾の負担軽減に寄与するであろう。

そこで，本研究では，大学生活に対する積極的行動および消極的行動に関する項目を作成し，健康に関する指標およびキャリアに関する指標との検討を試みる。健康に関する指標として，過去・現在・未来のストレス対処力である Time Perspective - Sense of

Coherence⁹⁾、人生の意味¹⁰⁾、自尊感情¹¹⁾、精神的不健康度を上げました。また、キャリアに関する指標として、多次元アイデンティティ¹²⁾、職業選択不安¹³⁾を上げました。それぞれを検討する意義については紙幅の事情から割愛するが、健康に関する指標については今井田・磯和¹⁴⁾を、キャリアに関する指標については磯和・今井田¹⁵⁾を参考にしたい。

方法

調査協力者

平均年齢 19.30 歳 ($SD = 0.95$) の大学生 267 名 (男性 162 名, 女性 105 名) の協力を得た。本研究は、今井田・磯和¹⁴⁾ および磯和・今井田¹⁵⁾、磯和¹⁶⁾、皿谷他¹⁷⁾ で用いたデータセットと重複があり、異なる視点での再分析である。なお、データセットの調査は単一の大学の学生に行われたが、調査協力者の所属学部は複数であった。

質問票

質問票は、学生生活への積極行動と消極的行動に関する項目群を著者間で協議して作成した。さらに、健康の指標に関する既存の尺度群を用いた。仔細を以下に示す。

学生生活への積極行動と消極的行動 著者間で協議して、学生生活への積極行動と消極的行動に関する 8 項目を 7 件法で作成した (「1. あなたが将来就こうと思っている仕事のイメージがはっきりしていますか? (「1. 全くはっきりしていない」—「7. 完全にはっきりしている」)」、「2. あなたは、単位を計画通り取得できていますか? (「1. 全くできていない」—「7. 完全にできている」)」、「3. あなたは毎期、一つの授業につきどれくらい欠席しますか? (「0 回」「1 回」「2 回」「3 回」「4 回」「5 回」, 「6 回以上」)」、「4. あなたは咎められない授業であれば、どれくらい遅刻をしますか? (「1. 全く遅刻しない」—「7. 遅刻をすることが多い」)」、「5. あなたは、授業内の小テストや課題などについて、どの程度積極的に取り組みますか? (「1. 全く取り組まない」—「7. 完全に積極的に取り組む」)」、「6. 大学が行う課外イベント (就職セミナー, 資格講座, ボランティアなど) にどの程度参加していますか? (「1. 全く参加していない」—「7. 積極的に参加している」)」、「7. アルバイトを楽しくできていますか? (「1. 全くできていない」—「7. 完全にできている」)」、「8. 大学のサークル活動を楽しんでいますか? (「1. 全くできていない」—「7. 完全にできている」)」)。

次に、以下の健康の指標として以下の心理尺度を用いた。

TP-SOC TP - SOC 9⁹⁾ で得た。同尺度は、過去・現在・未来の把握可能感 (項目例, これまでの私は、日常生じる困難や問題を理解できたり予測したりできた) と処理可能感 (項目例, 現在の私は、日常生じる困難や問題の解決策を見つけることができると思う), 有意味感 (項目例, これからの私は、人生で生じる困難や問題のいくつかは、向き合い、取り組む価値があると思えると思う) をそれぞれ 3 項目で問う。回答方法は、5 件法 (「1.

あてはまらない」—「5. あてはまる」)で回答を求めた。同尺度は高得点になるほどストレス対処力が強いことを示す。本研究では尺度得点と下位尺度得点をそれぞれ分析に用いた。

人生の意味 人生の意味三次元尺度¹⁸⁾の日本語版¹⁰⁾で得た。同尺度は、意義(項目例、私の人生は価値あるものである)を3項目、目的(項目例、私は自分の人生において、1つ以上の大きな目的を追求している)を4項目、一貫性(項目例、私の人生で起こるほとんどのことは、理にかなっている)を4項目で問う。回答方法は、7件法(「1. まったくあてはまらない」—「7. 非常によくあてはまる」)で回答を求めた。同尺度は、高得点になるほど人生の意味について強く考えていることを示す。同尺度は、因子構造について十分な知見が報告されていない²²⁾ため、本研究では尺度得点のみを分析に用いた。

自尊感情 Rosenberg自尊感情尺度¹¹⁾の日本語版¹⁹⁾で得た。福留・森永²⁰⁾に倣い、肯定的な項目群(項目例、私は自分に満足している。)で構成される肯定的自尊感情(Positive Self-Esteem: PSE)と、否定的な項目群(項目例、私は自分がだめな人間だと思う。)で構成される否定的自尊感情(Negative Self-Esteem: NSE)をそれぞれ5項目で回答を求めた。回答方法は、中立の回答の重要性を考慮して今井田・磯和²¹⁾の5件法(「1. あてはまらない」—「5. あてはまる」)を用いた。同尺度は、高得点になるほど肯定的自尊感情または否定的自尊感情が強いことを示す。従来では否定的自尊感情を逆転項目として用いて10項目での合計得点を算出するが、近年では否定的な自尊感情が低く評定することが必ずしも肯定的な自尊感情を有することではないことが指摘されている²²⁾。そのため、本研究では下位尺度得点のみを分析に用いた。

精神的不健康度 K 10²³⁾の日本語版²⁴⁾で得た。同尺度は、10項目(項目例、理由もなく疲れ切ったように感じましたか?)で問う。回答方法は5件法(「0. 全くない」—「4. いつも」)で回答を求める。高得点になるほど精神的に不健康であることを示す。本研究では尺度得点を分析に用いた。

多次元アイデンティティ 多次元アイデンティティ発達尺度(the Dimensions of Identity Development Scale: DIDS)¹²⁾の日本語版²⁵⁾で得た。同尺度は、コミットメント形成(項目例、自分の人生をどうするのかについては、自分で選んで決めた)を5項目、コミットメントとの同一化(項目例、将来の計画のおかげで、自分というものがはっきりしている)を5項目、広い探求(項目例、自分が進もうとする人生にはどのようなものがあるのか、すすんで考える)を5項目、深い探求(項目例、自分がすでに決めた人生の目的が本当に自分に合うのかどうか、考える)を5項目、反芻的探求(項目例、どんな人生を進みたいのか、どうしても考えてしまう)を5項目で問う。原版どおり5件法(「1. あてはまらない」—「5. あてはまる」)で回答を求めた。

職業選択不安 職業選択不安尺度¹³⁾で得た。同尺度は、自己理解不安(項目例、自分が何をやりたいかわからないのが不安である)を13項目、職業移行不安(項目例、社会人と

して自分がちゃんとやっていけるかどうか不安である)を8項目、職業理解不安(項目例、いろいろな職業があることを十分に知らないのではないかと不安である)を6項目、決定方略不安(項目例、いろいろ考えすぎてひとつの職業に決められないのが不安である)を6項目で問う。尺度得点が高いほど各不安が強いことを示す。原版どおり5件法(「1. あてはまらない」―「5. あてはまる」)で回答を求めた。

倫理的配慮

本研究は以下の倫理的配慮を順守した上で、Web上の質問票を用いて対面で実施された。同意書には、1) データは統計的に処理され、研究目的で利用されるため、個人情報を守秘されること、2) 回答の拒否が自由であること、3) 心身の調子が悪い場合には回答を控えてもらうこと、4) 気分が悪くなった際は中止しても構わないことを明記し、口頭でも説明しWeb上で同意を得た。さらに、回答者同士の席を離し、隣席から回答画面のぞき込まれることを防止した。なお、実際に気分が悪くなって中止した者はいなかった。

統計ツール

清水²⁶⁾が作成したHAD18.008を用いた。

結果

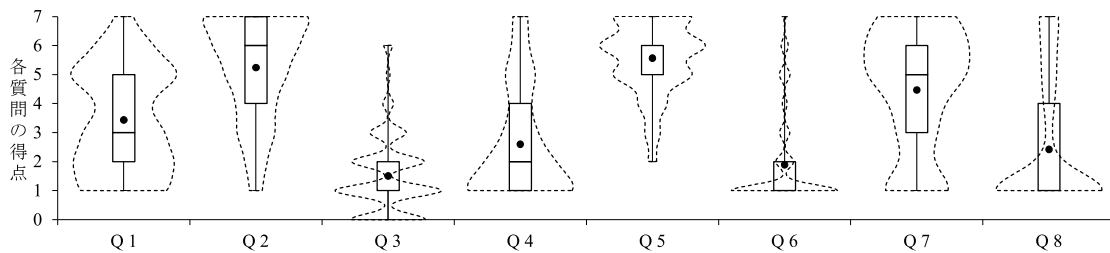
学生生活への積極的行動と消極的行動の各項目の基礎統計量

まず、学生生活への積極的行動と消極的行動の各項目の検討を行った。各項目について、基礎統計量を算出した結果をTable 1に、箱ひげ図とバイオリンプロットをFigure 1にそれぞれ示した。その結果、項目4と6、8に床効果が確認された。また項目1と3が左寄りの、項目2と5、7が右寄りのデータを示した。各項目の歪度と尖度、バイオリンプロットによるカーネル密度を検討したところ、偏りのある項目があると考えられた。

Table 1
学生生活に対する積極的態度に関する質問群の基礎統計量と性差

NO.	項目内容	Range	全体 (N=267)					男性 (N=162)		女性 (N=105)		Welchのt検定			
			Median	Mean	SD	歪度	尖度	M	SD	M	SD	t	df	p	d
1	あなたが将来就こうと思っている仕事のイメージがはっきりしていますか?	1-7	3.00	3.43	1.80	0.15	-1.25	3.64	1.81	3.11	1.74	2.38	228.77	.018	0.29
2	あなたは、単位を計画通り取得できていますか?	1-7	6.00	5.24	1.73	-0.78	-0.41	5.06	1.70	5.51	1.75	2.08	217.13	.038	0.26
3	あなたは毎期、一つの授業につきどれくらい欠席しますか?	0-6	1.00	1.50	1.35	1.21	1.74	1.54	1.25	1.44	1.51	0.60	192.38	.552	0.08
4	あなたは咎められない授業であれば、遅刻をしますか?	1-7	2.00	2.60	1.86	0.99	-0.25	2.62	1.85	2.57	1.90	0.19	217.47	.846	0.02
5	あなたは、授業内の小テストや課題などについて、どの程度積極的に取り組みますか?	1-7	6.00	5.57	1.24	-0.88	0.45	5.47	1.33	5.71	1.07	1.66	252.57	.098	0.20
6	大学が行う課外イベント(就職セミナー、資格講座、ボランティアなど)に参加していますか?	1-7	1.00	1.89	1.57	1.71	1.70	1.83	1.48	1.99	1.70	0.81	200.61	.420	0.10
7	アルバイトを楽しくできていますか?	1-7	5.00	4.47	2.06	-0.52	-1.02	4.50	2.12	4.42	1.97	0.32	233.99	.751	0.04
8	大学のサークル活動を楽しんでいますか?	1-7	1.00	2.42	2.20	1.14	-0.40	2.49	2.21	2.31	2.18	0.63	224.54	.529	0.08

Figure 1
学生生活への積極的行動得点の箱ひげ図とバイオリンプロット



注1) 図中の●は平均値を示す

注2) 図中の破線はバイオリンプロットを示す

その後、各項目の性差を Welch の t 検定により検討した。その結果、項目 1 については男性のほうが女性よりも有意に高く ($t(228.77) = 2.38, p = .018, d = 0.29$)、項目 2 については女性のほうが男性よりも有意に高く ($t(217.13) = -2.08, p = .038, d = -0.26$)、それ以外の項目は有意な性差が確認されなかった。以上から、本研究では、学生生活への積極的行動 (1., 2., 5., 6., 7., 8.) と消極的行動 (3., 4.) の各項目の代表値で分割を行うこととした。

用いる代表値は、これらの項目群の偏りや、本研究の探索的な側面が大きい点から中央値を採用した。そのため、中央値を上回る場合には 1、そうでない場合には 0 とコーディングした。コーディングした各値を用いて、大学生生活への積極的行動と消極的行動の累積得点をそれぞれ算出して変数化した。

学生生活への積極的行動と消極的行動の基礎統計量

次に、変数化した大学生生活への積極的行動と消極的行動の累積得点の基礎統計量および正規性を検討した。結果を Table 2 に示した。基礎統計量を分析した結果、いずれの群であっても積極的行動 (全体: $Mean = 2.08, SD = 1.32$, 男性: $Mean = 2.07, SD = 1.35$, 女性: $Mean = 2.10, SD = 1.29$) と消極的行動 (全体: $Mean = 1.01, SD = 0.79$, 男性: $Mean = 1.07, SD = 0.79$, 女性: $Mean = 0.92, SD = 0.78$) にやや左寄りの傾向が示されたものの、不備は確認されなかった。また、Kolmogorov-Smirnov 検定を全体・男性・女性の群で行った結果、積極的行動 ($Ds = .17 - .18, ps < .001$) と消極的行動 ($Ds = .21 - .23, ps < .001$) のいずれも正規性が満たされなかった。

学生生活への積極的行動と消極的行動、健康の指標の層別相関分析

その後、大学生生活への積極的行動と消極的行動、健康の指標について、Spearman の偏相関分析を実施した。なお、大学生生活への積極的行動あるいは消極的行動の独自の関連性を検討するため、一方の変数は統制変数として分析した。結果を Table 2 に示した。全体での相関において、大学生生活への積極的行動は、TP-SOC ($\rho s = .27 - .32$)、PSE ($\rho = .28$)、人生の意味 ($\rho = .31$)、反芻的欲求を除く職業的アイデンティティ ($\rho s = .29 -$

.41) と 0.1 パーセント水準で正に相関し、精神的不健康度 ($\rho = -.15$) と自己理解不安 ($\rho = -.17$) と 5 パーセントまたは 1 パーセント水準で負に相関した。また、NSE ($\rho = -.03$) や反芻的欲求 ($\rho = -.02$)、自己理解不安 ($\rho s = -.00 \sim .06$) を除く職業的不安と無相関であった。他方、大学生活への消極的行動はNSE ($\rho = .16$) と 1 パーセント水準で正に相関したものの、それ以外の変数と無相関 ($\rho s = -.07 \sim .09$) であった。

次に、同様の分析を男女別に行った。男女ともに、大学生活への積極的行動はTP-SOC (男性: $\rho s = .22 \sim .30$, 女性: $\rho s = .34 \sim .39$) と正に、PSE (男性: $\rho = .26$, 女性: $\rho = .32$) と人生の意味 (男性: $\rho = .26$, 女性: $\rho = .39$)、反芻的欲求を除く職業的アイデンティティ (男性: $\rho s = .31 \sim .40$, 女性: $\rho s = .26 \sim .42$) と 1 パーセントまたは 0.1 パーセント水準で有意に相関した。また、男女ともに、大学生活への積極的行動は反芻的欲求 (男性: $\rho = .04$, 女性: $\rho = -.12$) と職業理解不安 (男性: $\rho = -.02$, 女性: $\rho = -.08$)、決定方略不安 (男性: $\rho = .10$, 女性: $\rho = -.16$) と無相関であった。なお、大学生活への積極的行動について、男性で無相関であったのに対して女性で負に相関したのは、NSE (男性: $\rho = .07$, 女性: $\rho = -.18$) と精神的不健康度 (男性: $\rho = -.00$, 女性: $\rho = -.37$)、自己理解不安 (男性: $\rho = -.02$, 女性: $\rho = -.28$)、職業移行不安 (男性: $\rho = -.08$, 女性: $\rho = -.18$) であった。他方、大学生活への消極的行動について、男性で無相関であったのに対して女性で負に相関したのはNSE (男性: $\rho = .10$, 女性: $\rho = .26$) と職業決定不安 (男性: $\rho = -.08$, 女性: $\rho = .22$) であった。大学生活への消極的行動はそれ以外の変数 (男性: $\rho s = -.08 \sim .10$, 女性: $\rho s = -.11 \sim .15$) と無相関であった。

Table 2
大学生活への積極的行動および消極的行動の各累積得点と健康に関する指標との相関

尺度	全体 (N=267)		男性 (N=162)		女性 (N=105)	
	積極的行動	消極的行動	積極的行動	消極的行動	積極的行動	消極的行動
TP-SOC						
把握可能感	.32 ***	-.01	.30 ***	.01	.34 ***	-.05
処理可能感	.30 ***	-.05	.26 **	-.03	.39 ***	-.08
有意味感	.27 ***	-.07	.22 **	-.06	.35 ***	-.11
自尊感情						
PSE	.28 ***	-.02	.26 **	.02	.32 **	-.11
NSE	-.03	.16 **	.07	.10	-.18 †	.26 **
人生の意味	.31 ***	-.02	.26 **	.04	.39 ***	-.11
精神的不健康度	-.15 *	.02	.00	-.00	-.37 ***	.04
職業的アイデンティティ						
コミットメント形成	.34 ***	-.05	.35 ***	.01	.36 ***	-.15
コミットメントとの同一化	.36 ***	.01	.39 ***	.09	.36 ***	-.10
広い探求	.29 ***	-.04	.31 ***	-.03	.26 **	-.07
深い探求	.41 ***	.05	.40 ***	.03	.42 ***	.07
反芻的探求	-.02	-.03	.04	-.08	-.12	.08
職業選択不安						
自己理解不安	-.17 **	.01	-.09	-.02	-.28 **	.10
職業移行不安	-.06	.01	.02	-.08	-.18 †	.15
職業理解不安	-.05	.05	-.02	-.02	-.08	.22 *
決定方略不安	-.00	.09	.10	.09	-.16	.12

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

注 1) 各値は、積極的行動または消極的行動のいずれかを統制変数として投入した場合のSpearmanの相関係数

注 2) 積極的行動と消極的行動同士は、いずれの群でも負の相関が確認 (全体: $\rho = -.19, p < .001$, 男性: $\rho = -.18, p < .05$, 女性: $\rho = -.22, p < .05$)

考察

本研究の目的は、大学生活への積極的行動と消極的行動に関する項目を作成し、健康に関する指標との検討を試みることであった。その結果、大学生活へ積極的行動と消極的行動には性差があることが確認された。以上の結果について、大学生の休退学防止の観点から考察する。

学生生活への積極的行動と消極的行動の各項目の基礎統計量

まず、本研究で作成した学生生活への積極的行動と消極的行動に関する8項目について検討した。その結果、授業に遅刻する人々は少なく、大学の課外イベントへの参加度とサークル活動の充実度は低い人々がほとんどであることがわかった。遅刻の多い大学生は授業中の居眠りも多い²⁷⁾ため、単位取得に影響する可能性がある。これらのことから、厚生補導を含めた修学指導が必要となる可能性を考慮すべきである。また、大学への満足度は学生の愛学心や帰属意識を高めるため、間接的に学生募集に役立つ可能性²⁸⁾が示されている。したがって、大学自身が、学生にとって参加したくなるような課外イベントを行ったり、サークル活動の支援を行ったりしていくことには、休退学防止を含めた意義があるのかもしれない。

また、性差に関しては、将来の仕事のイメージは男性のほうが女性よりも明確である傾向があった。一方、計画的な単位取得については女性のほうが男性よりも有意に高く、単位を計画的に取得できていた。したがって、休退学防止の取り組みにおいて、男性には単位取得の計画について、女性には将来の仕事のイメージについて話し合うような、性別で異なるアプローチを考慮するべきなのかもしれない。

学生生活への積極的行動と消極的行動の基礎統計量

次に、大学生活への積極的行動と消極的行動の累積得点を検討した結果、全体および男女別のいずれの群においても、積極的行動と消極的行動はいずれも左寄りであった。また、積極的行動と消極的行動のいずれも正規性を満たさなかった。したがって、大学生活への積極的行動を促す余地があるのかもしれない。

学生生活への積極的行動と消極的行動、健康の指標の層別相関分析

最後に、大学生活への積極的行動と消極的行動、健康の指標の関連を偏相関分析により検討した。全体での相関において、大学生活への積極的行動は、TP-SOCやPSE、人生の意味と有意な正の相関を示した。これは、積極的に大学生活に取り組む学生はストレス対処力も強く、健康的な特徴を有すると考えられる。これは、SOCの高い大学生は抑うつ²⁹⁾の低さと行動の速さや強さを有する点²⁹⁾と類似する結果が得られたのかもしれない。さらに、大学生活への積極的行動は反芻的欲求を除く職業的アイデンティティと正の相関が確

認された。そのため、多くの学生が、自分の将来のおおむねの方向性を定めつつあることが示された。

男女別の相関分析では、いずれの群でも全体の分析で見られたように大学生活への積極的行動がTP-SOC, PSE, 人生の意味, 反芻的欲求を除く職業的アイデンティティと有意な正の相関を示した。しかし, NSE, 精神的不健康度, 自己理解不安, 職業移行不安については, 女性でのみ有意な負の相関が確認された。この結果は, 休退学支援において, 男性と女性で異なる支援が必要であることを示唆しているのかもしれない。特に, 女性においては, 大学生活への積極的行動が精神的不健康度と負の相関を示し, 大学生活への消極的行動とNSEや自己理解不安と正の相関を示した。したがって, 女性の大学生に対しては, 大学生活における積極的活動や, 学生相談やメンタルヘルスに関する支援が休退学支援に有効である可能性があると考えられよう。

限界と課題

本研究では, 学生生活への積極的行動の項目群は回答に偏りが大きかったことから, 7件法で得られた各項目の値について, 中央値を基準とした2値にコーディングして累積得点を算出した。そのため, 本研究で本来得られた情報が損失した可能性も否めない。また, 今後, 学生生活への積極的行動の項目群の回答方法を「0. いいえ」と「1. はい」の2件法で回答を求めた場合との違いも検討していく必要があるだろう。

また, 男性においては, 大学生活への消極的行動と関連する要因は見つからなかった。そのため, 遅刻や欠席といった行動と関連する異なる要因の探求が必要となるであろう。

さらに, 本研究のデータセットは単一の大学の複数の学部の学生に限定されていた。大学の規模や立地で学生の特徴が異なると考えられるため, 今後はより多様な大学からのサンプリングが必要である。

文献

- 1) 島尻 芳人・堂野崎 融, 機械学習を用いた出席率からの中途退学者予測モデルの構築, 九州共立大学研究紀要, 14 (2), 2024, 1-6.
- 2) 坂井 一貴, 私立大学の定員厳格化に伴う高校生等の高等教育機関進学状況の変化について, 長岡大学研究論叢, 20, 2022, 189-203.
- 3) 小藤 康夫, なぜ私立大学は赤字でも存続できるのか——経営危機のシグナルと公立化戦略を中心として——, 専修ビジネス・レビュー, 19 (1), 2024, 43-57.
- 4) 内田 千代子, 大学生の自殺の特徴と対応, 学術の動向, 13 (3), 2008, 26-33.
- 5) 岩崎 保道, 大学における休・退学防止の検討——学内組織連携型の学生支援策に注目して——, 関西大学高等教育研究, 6, 2015, 81-86.
- 6) 小塩 真司・願興寺 礼子・桐山 雅子, 大学退学者における UPI 得点の特徴, 学生相談

- 研究, 28 (2) , 2007, 134-142.
- 7) 竹橋 洋毅・藤田 敦・杉本 雅彦・藤本 昌樹・近藤 俊明, 退学者予測における GPA と欠席率の貢献度, 大学評価と IR, 5, 2016, 28-35.
 - 8) 飯田 満希子・舟橋 啓臣, 本学の学生支援に関する現状と課題——学生支援担当職員の立場から中途退学に着目して——, 愛知医療学院短期大学紀要, 12, 2021, 73-80.
 - 9) 今井田 貴裕・磯和 壮太郎, 簡易版学校教員の職務多忙感・負担感尺度と Time Perspective-Sense Of Coherence 9 の作成, 名古屋芸術大学キャリアセンター紀要, (12) , 2023, 13-24.
 - 10) 浦田 悠・島井 哲志・マルテラ F・スティーガー M. F., 人生の意味三次元尺度 (3DM) 日本版の開発 (1) ——信頼性・妥当性の検討——, 日本パーソナリティ心理学会第 32 回大会発表論文集, 2023, 131.
 - 11) Rosenberg, M., Society and the adolescent self-image, Princeton, NJ: Princeton University Press, 1965.
 - 12) Luyckx, K., Schwartz, S. J., Goossens, L., Soenens, B., & Beyers, W, Developmental typologies of identity formation and adjustment in female emerging adults: A latent class growth analysis approach, Journal of research on adolescence, 18 (4) , 2008, 595-619.
 - 13) 松田 侑子・永作 稔・新井 邦二郎, 職業選択不安尺度の作成, 筑波大学心理学研究, 36, 2008, 67-74.
 - 14) 今井田 貴裕・磯和 壮太郎, 青年期における TP-SOC のサブタイプの探求——人生の意味, 自尊感情, 精神的健康度, 遅刻・欠席に着目して——, 名古屋芸術大学キャリアセンター紀要, (13) , 2024, 35-45.
 - 15) 磯和 壮太郎・今井田 貴裕, 大学生の職業選択不安と多次元アイデンティティの関係の検討——首尾一貫感覚の調整効果を視野に入れて——, 名古屋芸術大学キャリアセンター紀要, (13) , 2024, 15-33.
 - 16) 磯和 壮太郎・今井田 真実・今井田 貴裕, 大学生の職業選択状況の類型化とその予測因の検討——心理的要因と学修態度からの予測——, キャリアセンター紀要, (14) , 2025, 13-30.
 - 17) 皿谷 陽子・磯和 壮太郎・今井田 貴裕, 大学生における正義観尺度の再現性と正義観と健康の指標の関連——TP-SOC や精神的健康度, 自尊感情に着目して——, 人間と環境, 22, 2025, 25-38.
 - 18) Martela, F., & Steger, M. F., The role of significance relative to the other dimensions of meaning in life—an examination utilizing the three dimensional meaning in life scale (3DM) , The journal of positive psychology, 18 (4) , 2023, 606-626.
 - 19) 桜井 茂男, ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討, 筑波大学発達臨床心理学研

- 究, 12, 2000, 65-71.
- 20) 福留 広大・森永 康子, 自己評価の尺度における肯定的・否定的項目群因子の年齢別の分析——ローゼンバーグ自尊感情尺度と特性的自己効力感尺度——, 教育心理学研究, 66 (30) , 2018, 212-224.
- 21) 今井田 貴裕・磯和 壮太郎, 首尾一貫感覚のサブタイプの探求——有意味感の独自性と楽観性, 自尊感情, 抑うつに着目して——, 応用心理学研究, 49 (2) , 2023, 152-153.
- 22) 福留 広大・藤田 尚文・戸谷 彰宏・小林 渚・古川 善也・森永 康子, 中学生におけるローゼンバーグ自尊感情尺度の 2 側面——「肯定的自己像の受容」と「否定的自己像の拒否」——, 教育心理学研究, 65 (2) , 2017, 183-196.
- 23) Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D. K., Normand, S. L., Waletzky, E. E., & Zaslavsky, A. M., Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress, Psychological medicine, 32 (6) , 2002, 959-976.
- 24) 古川 壽亮・大野 裕・宇田 英典・中根 允文, 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究, 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業) 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究 研究協力報告書, 2003.
- 25) 中間 玲子・杉村 和美・畑野 快・溝上 慎一・都筑 学, 多次元アイデンティティ発達尺度(DIDS)によるアイデンティティ発達の検討と類型化の試み, 心理学研究, 85 (6) , 2015, 549-559.
- 26) 清水 裕士, フリーの統計分析ソフトHAD——機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案——, メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 2016, 59-73.
- 27) 國方 功大・井上 文夫, 大学生の授業中における居眠りの要因, 学校保健研究, 54 (1) , 2012, 62-71.
- 28) 喜村 仁詞・小暮 克哉, 顧客満足理論に基づく在学生のクチコミ向上への取組み——学生募集広報ワークショップと自校教育——, 広報研究, 24, 2020, 17-31.
- 29) 嘉瀬 貴祥・大石 和男, 大学生におけるタイプ A 行動様式および首尾一貫感覚(SOC)が抑うつ傾向に与える効果の検討, パーソナリティ研究, 24 (1) , 2015, 38-48.